

柔道の組み手(組み方)における心理学的一考察
— 調査用紙作成のための予備調査について —

The First Psychological Study of 'Kumite' (Grappling) in Judo
— Preliminary Investigation for Creating a Survey Form —

鈴木 桂 治, 田 中 力, 百 瀬 晃 士, 多 賀 興 一 郎, 山 内 直 人
斎 藤 仁, 小 山 泰 文, 森 脇 保 彦

Keiji SUZUKI, Chikara TANAKA, Kouji MOMOSE, Yoichirou TAGA
Naoto YAMAUCHI, Hitoshi SAITOU, Yasufumi KOYAMA and Yasuhiko MORIWAKI

I. 諸 言

柔道は、創始者嘉納治五郎師範が1882 (M15)年、日本古来の伝統武術である柔術諸流に改良と近代教育(知育・徳育・体育)の思想を盛り込み、青少年の育成、人間形成を目指し集大成され創始されたものである。現在132年を経てIJF(国際柔道連盟)に加盟する国々は200ヶ国に達し、世界中に柔道愛好家が多く、陸上、サッカーと肩を並べるほどの広がりを見せるスポーツ種目となって来た。このような国際化・スポーツ化は競技面においても、1980年モスクワオリンピック前後を境として競技スポーツ化を促進させ、世界各国が共にオリンピックのメダル獲得にむけての競技力向上に拍車を掛ける事となり、国際大会が頻繁に行われる様になった。2009年にはランキング制の導入、2010年は審判ルールの改正で双手刈など直接足を取る技など腰から下を攻めることが禁止され、公正な審判を期する目的でビデオが導入された。また2013年より審判ルールはさらに改正され、試合場には無線機を装着した1名の審

判員が試合の進行を行い、技の有効性もさらに厳格になり、テクニックや技での「一本」にもっと価値を与えられ、常に攻撃する事が要求される「JUDO」に変貌して来た。

嘉納師範の理想とした「姿勢・崩し・つくり・掛け・体捌き」基本重視から結果重視の傾向が益々強まった様に思われる。その結果として、相手の状況など一切考える余裕のない展開から、相手より先に組み先に掛ける事が優先される試合が多く見られ、反則を取られないための技で、相手を投げる目的で掛けた技は少ない。審判員も積極的な試合展開を作り出すため、どちらか反則を取る事で流れを変えようという点に判定ポイントが置かれていると考える。当然一本勝ちの決まり技も少なくなってきたように思われる。

II. 目 的

現在実施されている柔道の競技環境の中で、基本である礼法・基本動作(受身・姿勢・組み方・体捌き・崩し・つくり・掛け)が、しっかりと実施

できるかという疑問が浮かび上がってくる。そこで本研究では、基本動作の組み手（組み方）についてどのように取り組まれているのか、また、過去に学ぶことはないか等の心理学的に調査検討を加え、柔道の今後に役立てる資料を得ることを目的とした。

Ⅲ. 研究方法

【調査方法および質問用紙の作成】

(1) 調査対象者

調査対象者は、関東近県130の町道場指導者に対して、郵送調査法によるアンケート調査を実施した結果、130道場中返信が26道場26名（男）の回答であり、回収率は19.23%であった。記述語総数179語（一人平均6.7個）、年齢52.4±16.4歳、段位4.5±1.8段、経験年数26±17年であった。また、K大学柔道部員125名に配布し、51名（男35女16）の回答であり、回収率は40.8%であった。記述語総数170語（一人平均3.3個）、年齢19.3±2.4歳、段位2.8±2.4段、経験年数11.5±4.1年であった。双方記述語の総和は349語（平均4.5個）であった。

(2) 質問用紙の作成

質問紙は、20答法（Twenty Statements Test；TST）の方法を採用し、表1-1に示すとおり質問1のフェイスシートに続き、表1-2、質問2の「組み手（組み方）」と言う刺激語を提示し、「柔道の組み手（組み方）に対するイメージを書いて下さい」として、最大10個を目標に出来るだけ多く自由に記述させた。また、自由記述終了後に「あなたが書いた文章の中で、一番主張したい文章に○印をつけて下さい」と教示し、予備調査を実施した。

この調査で採用したTSTは、書きかけの単語を対象者に与え、その後続けて文章を完成させる形式のテストである。これは1954年にアメリカの心理学者Kuhn.M.HとMcparlandによって開発

され、一人の調査対象者から多様な反応を得られるという利点がある。そのため、社会学、社会心理学、発達心理学、臨床心理学など様々な場面で活用されている。

(3) 調査期間

平成25年7月から9月までの間、関東近県の町道場指導者および、K大学柔道部員に対して調査書を郵送配布し、同意を得た後に実施し回収した。

Ⅳ. 結果及び考察

(4) データ分析および質問項目作成

回収された指導者26名+学生51名=77名について、予備調査を実施した結果349の記述語が抽出された（平均4.53個）、それらを用いてデータ分析を行い、KJ法（川喜田、1967）を用いて、類似していると思われる言葉を結び付けて項目を絞り込み、図1の 카테고리別総記述数（%）に示したとおり、記述総数を6つのカテゴリに分類した結果、A（13%）・B（22%）・C（7%）・D（4%）・E（32%）・F（22%）となった。

質問項目は、①対戦相手を対象にしたカテゴリ（A・B・C）、②柔道の本質を大事に取り組む事を対象としたカテゴリ（D・E）、③その他

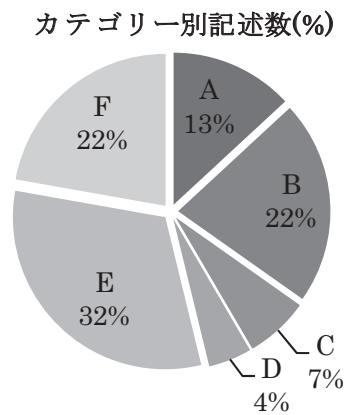


図1 カテゴリ別記述数（N=349）

の 카테고리 (F) の 6 カテゴリーであった。

A「自分中心の積極的攻防」(5項目):相手の体勢崩すとか考えず自分のやりたい事を優先した攻撃パターンの記述、(1) 組手は、相手が何もで

きない様に組むことが大事である。(7) 組手は、相手の頭を下げるようにするとチャンスが広がる。(13) 組み手は、早く掴むことが勝利の条件である。(19) 組み手は、早くとって自分のペー

表 1-1 質問用紙

調 査 の お 願 い
国士舘大学研究グループ
<p>柔道はオリンピック種目として世界 200 ヶ国余りの国々で愛好家が増え盛んに行われるようになって来ました。その結果、メダル獲得を主にする勝利至上主義が主流となり、ルール面、技術面に於いて本来の柔道から異種格闘技化して来ている様に思われます。</p> <p>そこで「柔道の基本動作」の中から「組み方(組み手)」について心理学的観点から検証することに致しました。あなたは「組み手」について、どのようなイメージをお持ちですか? 以下の質問 1、裏面の質問 2 の両方にお答えください。裏面の質問 2 には、1~10 の番号と下線がありますので、「組み手」という言葉から思い浮かべるイメージ(言葉や文章)を、10 種類(できる限り多く)書いてください。</p> <p>※例えば、組み手とは <u>何々である(何々するものである)</u></p> <p>回答していただいた記述は、すべて客観的に統計処理しますので、個人情報が出ることはありません。どうぞご安心ください。</p> <p>【質問 1】あなた自身についてお答えください。</p> <p>(1) あなたの年齢 _____ 歳 _____ 月</p> <p>(2) あなたの性別: 男性・女性 (○印をつけてください)</p> <p>(3) あなたの現在の段位: _____ 段 _____ 級・無級</p> <p>(4) 柔道の経験年数: _____ 年 _____ ヶ月 ・経験なし(経験無しの場合○印を)</p>

スにする大切な要素。(25) 組み手は、自分有利な組み手になるまで繰り返し徹底する事。

B「互いの積極的攻防」(5項目): 常に相手を意識して攻防のキャッチボールを心がけるパターンの記述」、(2) 自分が不利な組手となったところから勝負する、(8) 組手は、一步の動きで相手

が崩れ、一步踏み出すきっかけを作る重要な要素、(14) しっかりとした組み手は、前後左右の動き、意思などが全て相手に伝わる、(20) 組み手は、相手を誘導するために重要である、(26) 現在は、お互いに組み合った状態での攻防が少ない。

C「消極的攻防」(7項目): 組まない、組ませ

表1-2 質問用紙

【質問2】 以下に、1~10の下線があります。「組み手」についてのイメージ(言葉や文章)を思いつく限り書いてください。

1. _____

2. _____

3. _____

4. _____

5. _____

6. _____

7. _____

8. _____

9. _____

10. _____

※上の1~10のイメージの中で、一番主張したい(言いたい)番号を1つ選んで○印をつけてください。

ご協力ありがとうございました

表2 アンケート調査用紙

アンケート調査用紙		国士館大学研究グループ
調査のご協力ありがとうございます。下記の質問にお答えください(記入または○印)。		
質問1) 性別： 男性・女性 年齢： _____ 歳 柔道歴及び経験年数： 経験者 _____ 年 ・ 非経験者 _____ 年 頻度： ・授業で行う程度(中・高・大学) ・クラブで専門的におこなった(小・中・高・大学)		
質問2) 以下の項目は、柔道の組み手について記述したものです。貴方にとってどのくらい適切だと思いますか？ 非常にそう思う(7)番からぜんぜん思わないの(1)番までの数字を選んで○印をつけて下さい。 7(非常にそう思う) 6(そう思う) 5(ややそう思う) 4(どちらでもない) 3(やや思わない) 2(思わない) 1(全然思わない)		
1) 組み手は、相手が何も出来ない様に組むことが大事である	7	6 5 4 3 2 1
2) 自分が不利な組み手となったところから勝負する	7	6 5 4 3 2 1
3) 相手に技を掛けさせないような組手が大切である	7	6 5 4 3 2 1
4) ダイナミックで感動的な技は、お互いに組み合った攻防から生まれる	7	6 5 4 3 2 1
5) 柔道の組み手は、相手と組まなければ始まらない。	7	6 5 4 3 2 1
6) 組み手は、相手を感じる最初の岩である	7	6 5 4 3 2 1
7) 組み手は、相手の頭を下げるようにするとチャンスが広がる	7	6 5 4 3 2 1
8) 組み手は、一步の動きで相手が崩れ一歩踏み出すきっかけを作る重要な要素	7	6 5 4 3 2 1
9) 組み際の飛び込み技を掛ける組み手の研究	7	6 5 4 3 2 1
10) 理合いはしっかりした組み手の中から生まれる	7	6 5 4 3 2 1
11) 組み手は、相手充分に組ませて勝負するために重要	7	6 5 4 3 2 1
12) 組み手は、姿勢維持に役立つ貴重なもの	7	6 5 4 3 2 1
13) 組み手は、早く覆むことが勝利の条件である	7	6 5 4 3 2 1
14) しっかりとした組み手は、前後左右の動き・意思などがすべて相手に伝わる	7	6 5 4 3 2 1
15) 相手の組み手を嫌って下がりがながら場外際で技を掛ける戦法	7	6 5 4 3 2 1
16) しっかりとした組み手は、相手攻撃の出鼻をくじき、攻撃に転じるチャンスを作ることが出来る	7	6 5 4 3 2 1
17) 組み手は、身体の使い方・道衣のずらしなどに効果を発揮する	7	6 5 4 3 2 1
18) 組み手は、八割で勝負がきまる	7	6 5 4 3 2 1
19) 組み手は、早く取って自分のペースにする大切な要素	7	6 5 4 3 2 1
20) 組み手は相手を誘導するために重要である	7	6 5 4 3 2 1
21) 相手十分にさせないために切って切って切り離す戦法	7	6 5 4 3 2 1
22) 組み手は、攻防や体捌において重要な要素である	7	6 5 4 3 2 1
23) 組手は、手首の使い方である	7	6 5 4 3 2 1
24) 組み手は、勝負を決めるひつこさ、ガチャガチャである	7	6 5 4 3 2 1
25) 組み手は、自分有利な組み手になるまで繰り返し徹底する事	7	6 5 4 3 2 1
26) 現在は、お互いに組み合った状態での攻防が少ない	7	6 5 4 3 2 1
27) 相手に技を掛けさせないような組手が大切である	7	6 5 4 3 2 1
28) 安定姿勢は、しっかりとした組み手から可能になる	7	6 5 4 3 2 1
29) 組み手は、切るものでなく握り続けるもの	7	6 5 4 3 2 1
30) 組みては、スピードである	7	6 5 4 3 2 1
31) しっかりと組まないで掛け逃げすれすれの技を掛けて反則勝ち戦法	7	6 5 4 3 2 1
32) 組み手は、相手にこちらの意思を伝える最初の岩である	7	6 5 4 3 2 1
33) 組み手は、妥協しない	7	6 5 4 3 2 1
34) 組み手は、体捌・崩し・つくり・掛けに重要な要素である	7	6 5 4 3 2 1
(最後にそうだと一番そう思う項目の番号に○印をつけて下さい。 有難うございました。)		

ない、下がる、逃げ腰の技を掛けるパターンの記述、

(3) 相手に技をかけさせないような組み手が大切である。(9) 組み際の飛び込み技を掛ける組み手の研究、(15) 相手の組み手を嫌って下がりながら場外で技をかける戦法、(21) 相手充分にさせないために切って切り離す戦法、(27) 相手に技を掛けさせない様な組み手が大切である、(31) しっかりと組まないで掛逃げストレスの技を掛けて反則勝ち戦法

D「伝統文化的攻防」(7項目): 柔道本来の基本を重視し変幻自在に動けるパターン」、(4) ダイナミックで感動的な技は、お互い組み合った攻防から生まれる、(10) 理合いはしっかりした組み手の中から生まれる、(18) しっかりとした組み手は、相手攻撃の出鼻をくじき、反撃に転じるチャンスを作ることができる、(22) 組み手は、攻防や体捌において重要な要素である、(28) 安定姿勢は、しっかりとした組み手から可能になる、(32) 組み手は、相手にこちらの意思を伝える最初の砦である、(34) 組み手は、崩し・つくり・掛けに重要な要素である、

E「形式的位置づけ」(5項目): 競技上の組み手について、(5) 柔道の組み手は、相手と組まなければ始まらない、(11) 組み手は、相手充分に組ませても勝負するために重要、(17) 組み手は、身体の使い方・道衣のずらしなどに効果を発揮する、(23) 組み手は、手首の使い方である、(29) 組み手は、切るものではなく握り続けるもの、

「F」その他」(6項目) 技術的内容について、(6) 組み手は、相手を感じる最初の砦である、(12) 組み手は、姿勢維持に役立つ貴重なもの、(18) 組み手で、八割は勝負が決まる、(24) 組み手は、勝負を決めるしつこさ、ガチャガチャデアル、(30) 組み手は、スポードである、(33) 組み手は、妥協しない、の計34項目で成り立っており、表2の質問用紙はそれらの項目をランダムに配置し、それぞれの項目について7件法評価尺度法によって調査を行う事とした。

V. ま と め

今回の予備調査の結果から質問用紙作成を行なった。今後、本質問用紙(アンケート用紙)を使用して調査を実施し、得られたDATAを基に統計的処理を繰り返し妥当な質問項目作成と共に組み手の心理的な考察を進めていきたい。

参考文献

- 1) Recharadson.A (鬼沢 貞・浦野静雄訳):「心像」紀伊国屋書店、pp.11-26 (Mentalimagery. Routlsdgeand Kage Paul-London.1969)
- 2) 貝瀬輝夫: 柔道の「姿勢」と「組み方」が施技に及ぼす影響に関する研究P149~159 東京学芸大学紀要5部門 芸術・体/東京学芸大学「編」
- 3) 松永郁男・平沼正治: 柔道の「組み方」・構えと投技の運動構造について 武道学研究12-1 (1980) P77~79